

第3回 仙北市イクボス共同宣言

仙北市では平成29～30年度に市長・副市長・市管理職および市内事業所代表・管理職による「イクボス共同宣言」を行いました。今回も新たに宣言される方および過去に宣言された方の活動の参考とするため、2月9日にイクボスセミナーを開催しました。今回は、NPO法人ファザーリング・ジャパン東北理事の後藤大平氏を講師に招き、「With コロナでも成果を出せる、イクボス式マネジメント」という演題でご講演いただきました。

セミナー終了後、講師を立会人に、市管理職22人、趣旨に賛同していただいた企業の経営者および管理職2人による「イクボス共同宣言」を実施しました。

【イクボスとは…】

働く部下・スタッフのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自ら仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のこと。

「イクボス共同宣言」に賛同いただける企業や団体などを募集しています！



2月9日に行われた「仙北市イクボス共同宣言」。市管理職のほか、仙北市消防団と羽後衛生社の経営者および管理職2人が宣言を行いました。

祈りを込めて 角館火振りかまくら



2月14日、角館町の小正月行事「火振りかまくら」が行われました。今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、規模を縮小し観光客の体験も中止となりました。例年であれば角館町内約30か所で行われていた火振りかまくら。今年は18か所に減ったものの、地域の皆さんは火のついた炭俵を振り回し、五穀豊穡や無病息災を祈り、あたりにはいくつもの火の輪ができていました。

仙北市×日本生命保険相互会社秋田支社

))) 連携事項

- ① SDGsの推進に向けた取り組みに関すること。
- ② 健康増進・疾病予防に関すること。
- ③ 子育て支援に関すること。
- ④ 高齢者支援に関すること。
- ⑤ 障がい者支援に関すること。
- ⑥ 地域や暮らしの安全・安心に関すること。
- ⑦ 結婚支援に関すること。
- ⑧ その他、双方が必要と認める地方創生に関すること。

包括連携に関する協定を締結

2月16日、仙北市と日本生命保険相互会社秋田支社が包括連携に関する協定を締結しました。この協定は、SDGs未来都市として「誰ひとり取り残さない」を政策の中心とする仙北市とお客さまの健康や地域社会への貢献活動に取り組んでいる同社が連携して市民の健康と生命、生活を守ることを目的とするものです。締結式で同社の高橋弘行秋田支社長は「県内市町村との協定締結は初めてだが、弊社のSDGsの取り組みをより一層前進させ、地域とのニーズにきめ細やかな対応をしていきたい。仙北市とは今後より早く具体的な取り組みを進めていきたい」と話しました。また、門脇市長は「市民誰ひとり取り残さないという大きな目標を掲げている中で、同社は同じような考えのもと、人生100年時代に向けた活動にすでに取り組んでいる。今後は健康の維持・増進に向けた情報の共有や男女共同参画の推進など様々な分野で連携を図っていきたい」と話しました。



協定を取り交わした日本生命保険相互会社の高橋秋田支社長（右）と門脇市長（左）。

東日本建設業保証株式会社に寄付金

2月25日、東日本建設業保証株式会社秋田支社（清水洋一 支店長）が今冬の大雪による被害へのお見舞いとして市へ10万円を寄付しました。同社は、東日本を中心に公共工事の前払金を保証する事業を行っています。清水支店長は「大雪により被害に遭われた方々には、心からお見舞い申し上げます。今後も建設業界のみならず、市民の皆さまの何らかの力になることができれば」と話しました。



左から倉橋副市長、門脇市長、清水支店長、同支店の原和久次長、高橋危機管理監兼総合防災課長。

高野若駒クラブ

いきいき元気に地域活動

令和2年度秋田県老連表彰のものづくり活動部門で表彰された「高野若駒クラブ」。普段どのようなものづくり活動をしているのか密着してきました。

高野地域一丸となって地域を活性化したい、郷土を愛する思いがきっかけとなり、平成27年3月に高野若駒クラブを結成しました。

老人クラブとして始めた活動は、体操やスポーツ活動のほか、秋田県で開催されている創作ダンスなどへの参加です。しかし、冬期間はこれといった活動を決めていないようでした。

同クラブ女性部で代表を務める渡辺美津さんは、冬期間でもみんなで集まってなにかできることはないかと考え、エコクラ



手際よくエコクラフトでかごを編んでいます。

フトを用いた編み物づくりをすることにしたそうです。最初は3人だけのスタートでしたが、活動を続けて6年。今では鈴木たつ子さんを講師に10人以上の方が参加しており、駒ヶ岳ドラインを会場に編み物づくりに挑戦しています。今年から同クラブの編み物づくりに参加した古村好美さん。始めたきっかけは会員が製作したかごを拝見し、自分もこんなに綺麗なかごを作りたいと思ったそうです。

この日は以前から編んでいたかごづくりの続きからスタート。順調に編み進めていきましたが、編み忘れていた部分が見つかり、せっかくなので編み進めた部分をすべてほぐすことに。しかし、古村さんは楽しそうにほぐす作業をしていました。「周りの方々が優しく教えてくれるし気にかけてくれる。なによりみんなで編み物をするのが楽しい」と笑顔で話してくれました。

一段落したところでお茶の時間。「次はこういう編み方に挑戦したい」「エコクラフトの色がき



高野若駒クラブ女性部の皆さん。後列左が代表の渡辺さん。

れいだね」という編み物の話題から近況報告をしたりと、皆さんの会話は途切れることなく、情報交換をしていました。最後に渡辺さんにお話を聞くと「皆さんがこの時間を待ち遠しいと思ってくれるのは嬉しい。地区や年齢は問いませんが興味のある方は見学からでもどうぞ。毎週水曜日に開催していますので温かい飲み物を準備してお待ちしています」と話してくれました。今後の地域活動の発展が期待されます。

～ 田沢湖高原雪まつり presents ～ たざわ湖雪像コンテスト

力作の雪像が勢ぞろい

毎年田沢湖高原雪まつりで制作される様々な雪像。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により同まつりは来年度に延期となりましたが、訪れるお客さまに楽しんでいただくとうと雪像コンテストが開催されました。

コンテストは、新型コロナウイルス感染症に配慮し、たざわ湖スキー場や休暇村乳頭温泉郷、山のはちみつ屋など6か所に分散して制作された雪像のいずれかに投票し、得票数を競うというもの。秋田公立美術大学と国際教養大学の学生が4人1組となり、それぞれのチームが雪像を制作しました。

たざわ湖スキー場で「フクロウ」をテーマに雪像の制作にあたった秋田公立美術大学3年の織田修平さんは「雪像の制作は昨年続き2回目。大阪出身で雪にふれることがなかったのが、秋田にいたる間に雪像作りを体験してみようと思った」と参加のきっかけを話してくれました。また、「雪像作りは時間が限られている中で、チーム内で制作の手順やイメージを共有することが大切。昨年に比べ雪が硬かったのが難しかったが、フクロウの羽をポイントに大きく仕上げる事ができた」と話しました。

雪像は、2月20日から28日まで展示され、WEBと投票用紙による投票が行われました。

プログラミングを活用したアイデア
2020あきたキッズ
プログラミングアワード入賞



左から福岡舞桜さん、石川才稀さん、熊谷教育長。

秋田県内の小・中学生を対象にしたプログラミングコンテスト「2020あきたキッズプログラミングアワード」で未来を変えるのは君だ！(主催：秋田魁新報社)が開催され、アイデア部門で神代小学校6年の石川才稀さんが秋田魁新報社賞、西明寺小学校5年生の福岡舞桜さんが秋田工業高等専門学校賞を受賞しました。二人は応募総数117組(154人)から書類審査、動画プレゼンテーションを経て、ファイナリストに選ばれ、今回の受賞に

今回の募集テーマは「もっとすきになるわたしたちのまち」。石川さんは「秋田はなまるVR観光」と題して、新型コロナウイルス感染症の影響などで外出できなくてもVR(仮想現実)を活用して部屋にいながら実際に訪れて観光した気分になれるというもの。一方、福岡さんは「高齢者に優しい「あったかバス」と題して、自動運転技術を活用してスマートフォンのアプリから予約すると無料で送迎をしてくれるというもの。

このアイデアを思いついたきっかけを聞くと、石川さんは「コロナ禍で外出できないけど、秋田で観光できないかな」と、福岡さんは「家族でできたときに歩いて買い物に行っているお年寄りが大変そうだった」と二人とも誰かの役に立つてほしいとの思いからです。動画プレゼンテーションでは、石川さんは「アナウンサーになりきった」、福岡さんは「練習どおりにできれば」と臨みましたが、緊張したとのこと。

二人は、受賞を喜びながら早く実現してほしいと話していました。

雪像コンテスト作品

※作品名/チーム名(展示施設)



最優秀賞



優秀賞



人々に平和をもたらすアマビエチームA I.U.(山のはちみつ屋)

今、会いに行きマス。/塩焼き(田沢高原ホテル)

雪原のホエール/いそぎんちゃく(ロツジ山の詩)

「さわやかボランティア
ひまわり」が受賞

仙北地域振興局「元気なふるさと秋田づくり」顕彰事業

2月25日、仙北地域振興局で令和2年度仙北地域振興局「元気なふるさと秋田づくり」顕彰事業表彰式が開催されました。仙北市からは心豊かな生活を目標として活動している「さわやかボランティアひまわり」がこれまでの活動実績が認められ表彰されました。「元気なふるさと秋田づくり」顕彰事業は、よりよい地域をつくるため、地域固有の様々な課題の解決に向けて、自立的・主体的な活動を行っている方々を「元気なふるさと秋田づくり」の実践者として表彰し、この表彰を通して地域づくり活動の活性化を図り、多くの県民がこうした活動に参画できるように普及・啓発を図ることを目的としています。



左から事務局の大河久美子さん、進藤ミツホ会長、小林洋子さん。

眠れるようになった、「呼吸を自分で意識して調整し、体調管理ができるようになった」と思える。「足指が広がるようになり、転ばなくなった」「みんなと会話ができ気分もよく、それが体調に変化が現れてとてもよいと思う」といった声が届いています。

表彰式に出席した進藤ミツホ会長は「私たちのグループは、会員自身が心穏やかに健康でいることを心がけ、各々ができることを持ち寄り、コツコツと活動を始めて12年になります。高齢化が進む地域ですが、皆さんと共に健康で安心して暮らせる明るい地域づくりに努めていきたい」と話しました。

KEIKI HULA JAPAN 2021

菊地蓮さん(角館小5年)がフラダンス全国大会で優勝



左から浦山英一郎校長、菊地蓮さん、熊谷教育長。

校に通っていたという菊地さん。フラダンスは妹たちもやっていたということもあり、3年ほど前から始め、フラダンス教室で本場ハワイの踊りを身につけました。ハワイ在住時には、世界大会にグループ部門で出場したことがあ

るそうです。日本に戻ってからもフラダンスを続け、ハワイや東京の指導者からオンラインで指導を受け、練習に励んだとのこと。

「フラダンスを通して色々な人と交流でき、仲間が増えて楽しい」とフラダンスの魅力を語ってくれた菊地さん。大会を振り返って「踊りの中にまぎらわしい部分があったので、そこを忘れないように踊った。優勝できて嬉しかった」と話しました。また、今後の目標を聞くと「歌の背景やハワイ語の意味を理解し、これからも練習を続けてさらにレベルアップできるように頑張りたい」と力強く話しました。

2月13日に鎌倉芸術館(神奈川県鎌倉市)で開催された小学生のフラダンス全国大会「KEIKI HULA JAPAN 2021」に出場した角館小学校5年の菊地蓮さんが、優勝しました。ソロ部門とグループ部門からなる同大会。ソロ部門に初出場した菊地さんは、見事な踊りで優勝、来年の7月にハワイで開催される世界大会への出場権を獲得しました。お父さんの仕事の都合で6歳の時にハワイに移り住み、日本に帰国する昨年夏までの約5年間、現地の学



私の取り組みの内容をご紹介します

中山里沙



協力隊3人でテントサイトの設置を体験中。左から中山、東風平詩人、鐘俣倫。

皆さんこんにちは。去年9月に着任してはや5か月が経ちました。初めての秋田の冬は記録的な大雪!まず積雪量に圧倒され、白く厚く覆われた町の景色と吹けば舞うパウダースノーに初対面し、おどろき、高揚し、視界一面「真っ白」の美しさに心打たれ、凍った路面であっさり転び、雪寄せすれば落雪を顔面で受け。雪国初心者まるだしです。なんとか暮らせているのは、周りで気にかけてくださる皆さんのおかげです。この場をお借りして、感謝申し上げます!

さて今回は、私の協力隊としての活動内容をご紹介します。主な業務は、「観光地域づくり法人(DMO)の運営サポート」。DMOとは、英語の長い名前の頭文字をとった略称です。観光庁が数年前から導入した制度で、平たく言うと「観光地域づくりの舵取り」役。イメージとしては、地域をひとつの「店」と捉えたときに観光資源が「商

かくのだてフィルムコミッション

ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション
(仙北市観光課内) ☎43-3352
<https://kakunodate-fc.jp/>

新型コロナウイルス感染症が広まり出してから1年が過ぎました。私たちの生活も様変わりし、人々の往来が極端に減り、授業や会議など様々な場面で、オンライン化が急速に普及しました。

かくのだてフィルムコミッションの活動も新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、市民の安全を優先に考え、撮影支援ガイドラインおよびチェックリストに沿って、細心の注意を払い活動を行いました。

観光支援策「Go Toトラベル事業」が始まった頃から、旅番組のロケ支援依頼が徐々に増えてきましたが、これまでなかったオンラインでの観光ツアーのロケ支援依頼もありました。旅行代理店などの関係者が実際に観光地を訪れ、現地からの映像をインターネットで中継し、お客様のパソコ



今年はどんな桜が咲くのでしょうか。(令和2年4月撮影)

ンやスマートフォンなどに配信するようになります。これらのロケ支援で必ず問い合わせがあるのが、中継したい施設にインターネットのWi-Fi環境が整備されているかということです。残念ながら、まだ整っていない施設が多く、持参した移動体通信回線のポケットWi-Fiなどで対応していただきました。これからの課題の一つが、より便利に使えるためのWi-Fi環境の整備であると感じました。

(会長 坂本 洋)

品」だとすると、どんなお客さんが来てくれて、何を求めている、どんな商品、どんな設備があればもっと来てくれて、また買いに来ようと思ってもうらえるかなど、経営視点で魅力的な観光地を作るための中心となる組織です。現在、観光協会がDMO候補法人として稼働中であり、「候補」から「本登録」を目指すためのサポートが、大事な業務の一つ目です。また、もう一つ大事な業務として、運営そのもののサポートがあります。今年度は主に、観光庁補助金事業による田沢湖エリアの新しい体験商品の開発を行っています。例えば田沢湖一周の新ツール「電動キックボード」やキャンプの新しい形「テントサイト(木に吊って空中に張るテント)写真参照」の導入、泊食分離(宿ではなく周辺の飲食店で食事をする)を進めるディナープランの作成などなど。これら事業に携わりながら地域の歴史や現状について教

わる日々です。その中で実感するのは、「地域づくり」とは事業のことではなく、地域で暮らす人全員が基点となるもので、なり得るものだということ。人気の観光スポットだけでなく、地元では当たり前の風景や食事、文化の一つひとつが宝物みたいにきれいな仙北市は、すでに十分魅力的です。でも、ここに暮らす皆さんの可能性はここからさらに自由に広がっていると感じています。観光業であるなに関わらず、一人ひとりの好きなこと、得意なことを活かしたいろいろな仕事やお店、活動、イベントなどがこれからもっと増えたら、活気と笑顔があふれるより魅力的な地域になると思います。そして、その土地で出会う笑顔が、訪れた人にはこれ以上ない魅力であり、旅の記憶になります。地域をつくり出す最も大事な財産とは「人」ではないでしょうか。私も退任後を視野に入れ、できることを探っていきます。